

令和6年度第6回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

1 日時

令和7年3月28日（金） 14時00分～15時30分

2 開催場所

千葉市役所 7階 会議室

3 出席者

（委員）神野委員長、種谷副委員長、椎原委員、関委員、高梨委員、沼田委員、柳澤委員

（事務局）堺生活文化スポーツ部長、吉野文化振興課長、事務局職員

4 議題・報告

（1）（議題1）千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想（素案）について

5 議事の概要

（1）（議題1）千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想（素案）について

千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想（素案）について、事務局から説明の上で、審議を行った。

千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想（素案）については継続審議として、今回の審議内容を事務局で整理し、千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想（案）に反映した結果を示すこととなった。

6 会議経過

(1) (議題1) 千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想(素案)について

≪千葉市アーツカウンシル【仮称】基本構想(素案)について、事務局から、資料1を用いて説明を行った。≫

神野委員長

これまで文化芸術振興会議でアーツカウンシルの共通理解を深めていき、事務局からはアーツカウンシルの枠組みが示されました。その枠組みについて、文化芸術振興会議でさらに審議をした内容を事務局で整理してまとめたものが、今回示されている千葉市アーツカウンシル(仮称)基本構想(素案)です。

行政の進め方としては、当然文章によってその内容を定義付けていくこととなりますが、実際にアーツカウンシルが活動していく際は、人と人が関わり合い、文化芸術の質を向上させていくようなことに、日々取り組んでいくことになると思います。

文化芸術振興会議で議論する際には、そういうことを想像しながら、必要なことやニュアンスについて議論ができるとよいと思います。事務局では、これまでの委員の皆様の見解も精査して基本構想(素案)に組み込んでいるので、そういう点も踏まえてご意見をいただければと思います。

柳澤委員

素案について、素晴らしいものができていて驚きました。

その中でビジョンや機能について、これまであまり触れられていない視点として、千葉市民が文化芸術活動を他人事から自分事に変えていくという視点を加えていただきたいと思いました。

文化芸術は属人的なもので一人一人まったく異なるものができることが素晴らしいと思います。市民が文化芸術の鑑賞だけではなく、例えば楽器を弾いてみたり、絵を描いてみたりするなど、実際に文化芸術活動を継続的に行っていく、千葉市民98万人全員がアーティストというような視点があるとよいと思います。

楽器を実際に演奏した後に、音楽鑑賞をすると、演奏方法や表現方法の新しい発見や、曲の解釈などの気付きなど、深い学びを得られて、それは人生を豊かにしていくと思います。基本構想のビジョンや機能にそのような視点が盛り込まれると、千葉市民の人生が豊かになるような素晴らしいものになると思いました。

神野委員長

D人材育成機能において、ニュアンスがもう少し明確になるような文言になるとよい、ということかと思います。

基本構想(素案)では、文化芸術活動の担い手(実践する人・鑑賞する人・支える人)をクリエイティブな主体ととらえていると思います。

柳澤委員のご意見は、その人たちが継続的に活動しながら、自分で発表したり、アクションを起こしたりしていくことが大事ということだと思います。育成した文化芸術の担い手を支援して、その担い手が次のステップに進んでいくようなニュアンスが加わることで、今のご意見を組み込めるかと思われました。

椎原委員

まず指摘事項ですが、2ページ「1策定の趣旨」に「千葉市前澤友作アートのまちづくり条例」と表記がありますが、正しくは「千葉市前澤友作アートのまちづくり基金条例」ではないかと思

います。

内容については、「千葉市前澤友作アートのまちづくり基金」は約14億円の寄付を受けて、それを原資としていると思いますが、アーツカウンシルと基金がどのように関係するのかがよく見えてこないです。

「千葉市前澤友作アートのまちづくり基金」において、「まちづくりに活用するアートは現代アートを主とする美術」としていると思いますので、アーツカウンシルと基金が関係するのであれば、「1策定の趣旨」にもっと現代アートという言葉があってもよいと思います。また、基金を活用するのであれば、それは千葉国際芸術祭が活用先になるのかもしれませんが。

アーツカウンシルが「千葉市前澤友作アートのまちづくり基金」を統括する、あるいは運営の主体となるのでしょうか。

堺生活文化スポーツ部長

まず、「1策定の趣旨」について、新しい展開の具体的なトピックの一つとして「アートによるまちづくり」を記載させていただいたというのが率直なところです。

前澤さんの寄付に基づく「アートによるまちづくり」は、現代アートを中心とする美術領域、かつ空間的な整備とソフト的な活用を一体的に活性化していく取り組みを対象として民間提案を募っていますが、アーツカウンシルとどこまで関わりをもたせるかは今後の検討となります。実際の取り組みに対しては、例えば相談支援や伴走支援に関わることも想定されますが、今のところはアーツカウンシルが基金を統括するというところまでは、まだ検討が進んでいない状況です。

「1策定の趣旨」に基金について記載することで、アーツカウンシルが「アートによるまちづくり」を主体的に運営するよう受けとめられかねないようでしたら、無理して基金について記載しなくてもよいのかな、という感覚ではあります。

椎原委員

例えば、民間提案についてはアーツカウンシルが審査するべきだと思いますので、そこはかなりリンクしていると思います。

神野委員長

椎原委員のご意見はとても重要です。

千葉市の文化芸術の取り組みとしていろいろな事業をやっていて、例えば文化芸術振興計画の関連事業の評価の際に他課の関連事業を含めた一覧を示されます。文化振興課は当然文化芸術振興計画の内容を確認しながら取り組んでいると思いますが、残念ながら他課はほとんど計画を参照していないと思います。それについては、これまでも何度も文化芸術振興会議では責任を負えないということも含めてお話をしました。

アーツカウンシルを立ち上げて、文化芸術を推進していくことは、ある種の千葉市の覚悟の現れだと思います。

千葉市の文化芸術に関わる様々な活動は、多様性はあって然るべきですが、同じ方向を向いていることがしっかり担保されていないといけません。

さきほど堺部長からもお話がありましたが、「アートによるまちづくり」をどのようにしていくかは、これから議論されると思います。提案内容についてアドバイスをしたり、問題点について意見をしたりする機能がない中で提案募集が開始されていますが、アーツカウンシルはまさにそういったことを行うためにあります。

前例ができてしまうと、またちぐはぐなことにもなりかねませんので、そういう点からも危険である気がします。

前澤さんの意向は当然のことながら確認をして、基金の活用については、民間提案をどのよう

に選考するのか、実現に向けてどのように指導助言をするのか、ということも併せてしっかりと検討していただく必要があると思います。椎原委員からもご意見がありましたが、そこはまさにアーツカウンシルが関わるべきことです。

アーツカウンシルが担う領域は現代アートだけではないので、現代アートについては基金やその助成にも関わるという記述が相応しいと思います。アーツカウンシルがありつつ、この基金には関与しないのは違和感があるので考えていただきたいと思います。

椎原委員

ここで謳っているビジョンは素晴らしいものですが不安に思う点もあります。以前、メディアアートの事業が進められるということがあった気がしますが、早急な判断は危険だと思います。例えば、為政者がオペラ好きだからという理由で、オペラの街にするような主義や主張にはブレーキがかかるべきであり、そのような調整機能はアーツカウンシルが担うと思いますので、その点は考慮してほしいです。

神野委員長

その点はたしかに気にかかります。

基金に関しては、文化芸術振興会議でも審査している芸術文化振興事業補助金等より、はるかに大きい予算規模であるものの、文化芸術振興会議では意見を聞かれることなく、いつの間にか始まっていた記憶があります。

一方で、アーツカウンシルは基本構想を策定して推進していこうとしているので、やはりちぐはぐな感じがします。

ですので、ビジョンを設定して、同じ方向性であれば多様性はあってもよいと思いますが、そのビジョンに従って事業を推進して、チェックをしながら改善していくという仕組みをしっかりと構築してほしいと思います。

実際に実効力をもってやっていくことはとても大変ですが、そこにトライしていくことが大事だと思います。

このアーツカウンシル基本構想（素案）はさらに精査すると思いますが、アーツカウンシルは基本構想を指針にして、今後、事業などを考えていくことになると思います。

関委員

舞台芸術に限った話かもしれませんが、千葉市で活動していたときに、千葉市には専門のスタッフの業者が足りていないと感じました。例えば、照明業者などもあるにはありますが、非常に少ないので、結局は東京や知り合いなどにスタッフをお願いしていた状況がありました。

アーツカウンシル基本構想（素案）を読んでいて、千葉市には民間の業者が多様にいるなどの条件が揃っていないと思いました。1つの業者が独占するのはよくないと思いますので、照明や音響もいろいろな業者・スタッフがいる状況がよいと思います。舞台芸術では、いろいろな舞台技術や舞台監督の人がいて、どの人に頼むのかということがありますが、その辺りが大変だった印象があります。

ですので、アーティストを大切にすると打ち出しても、スタッフが揃っていないとなかなか難しいと思いますし、いろいろな条件がありますのでその辺りが大事だと思います。

フェスティバルをやる際にも、様々なスタッフワークが必要になると思います。本当は千葉市のスタッフ・業者に頼むのがよいと思いますが、結局は東京にいろいろ頼ってしまうことになってしまう気がしますのでそれでよいのかな、ということをおもいます。アーツカウンシル基本構想に盛り込む話ではないですが、少し不安に思いました。

神野委員長

最初から東京や神奈川と同じような状況でスタートすることは当然できないと思います。

アーツカウンシルが稼働して、最初は都内の業者等に依頼しながら、市内の文化芸術活動をサポートすることになるとと思いますが、千葉市の文化芸術活動が活発化していくと、市内でアートに関する機材・スタッフの業者が立ち上がる、あるいは千葉市内のイベント関連で機材・スタッフを扱う業者が、アート部門を立ち上げるということが起こると理想的です。

ただし、ビジネスとして成り立たないとそのような状況は起こらないので、千葉市で機材・スタッフの業者が増えるような状況を生み出すことも視野に入れたいといけません。

機材をすべて東京から持ち込むと相当なコストがかかりそうですが、例えばアーツカウンシルが最低限の機材を所有していて、それを安価に貸出するという方法はどうか。

関委員

専門的なスタッフがついていないと安全性の担保がされないと。機材を自由に貸出して事故が起きてしまうと大問題ですので、やはり劇場には専門的なスタッフが必要なのだと思います。

神野委員長

もちろん勝手に機材を使うのは危険なので、機材の取り回しができる人を対象として、安価に貸出しをするということであればハードルは下がると。思います。

関委員

実現できればだいぶ経費が少なくなるので助かることではあります。難しいかもしれませんが、例えば文化ホール等の機材を使うことができる、などといったことも選択肢としてあると思います。

神野委員長

そのような活性化した状況を生み出すことを大きなミッションの1つとするならば、文化芸術振興会議で議論している内容も含めて、千葉市にふさわしい形としてどのようなことができるのか調査・研究機能で研究していくことになると思います。さらにその先としては、いろいろなプレーヤーがいて、文化芸術活動がまわっていく仕組みができることが最終的な理想形だと思います。

高梨委員

アーツカウンシル基本構想は素案としてはとてもよいと思います。

先ほどから心配な点についてご意見が出ているか。と思います。よい方向に展開していくためには、注意すべき点について、あらかじめ文言が入っていた方がよいと思いましたが、千葉市と似たような環境の地域のアーツカウンシルについて、参考にできる点、苦労している点、工夫している点などの事例があれば教えていただきたいと思いました。

吉野文化振興課長

他自治体でも多くのアーツカウンシルが設立されていますので、事務局で基本構想（素案）をまとめるにあたり、まず他市の事例を調査しました。主なところでは、近々でアーツカウンシルを設置しているさいたま市を参考としている他、静岡県なども参考にしています。

実は自治体によりアーツカウンシルの設立方法は様々です。基本構想を定めている自治体もあれば、文化芸術の計画の中でアーツカウンシルについて記載している自治体などいろいろな形式

があります。千葉市で基本構想として定めたのは、参考としたさいたま市がやはり基本構想を定めていたためです。

アーツカウンシルの審議を進める中で、「千葉市らしさ」を打ち出すという議論があったと思います。さいたま市や静岡県では、アーツカウンシル設立までの背景や経緯があり、地域性を活かして設立しているということが特徴です。

千葉市の場合には、まずは基本的なアーツカウンシルの機能をフラットに揃えた中で、例えば調査・研究機能での事業を進めていき、それをベースとする中で、千葉市の特徴が現れるという議論で整理できていると受けとめています。

それぞれの自治体が、個別の背景や経緯をもって苦勞をしながらアーツカウンシルを設立しており、単純に比較するのが難しいので、対応に苦慮している点がどこか、というのはなかなか申し上げづらいところです。

神野委員長

「千葉市らしさ」がいつも話題になること自体が千葉市らしいといえれば千葉市らしいのですが、アーツカウンシルの調査・研究機能で、文化芸術活動をサポートしたり、自主事業を展開したりする中で、千葉市外で活動をしている人が、千葉市の文化芸術に関わることがあると思います。そのような人が千葉市の文化芸術の状況について発言される機会もあると思いますので、そういう活動が「千葉市らしさ」を検証・確立する場になっていくと思います。

静岡県やさいたま市など他の自治体は、核になるものを膨らませていくような形になると思いますが、千葉市の場合には、いろいろな人を発見して、一緒にできることをつくっていき、出来事を起こしていくことを並行してやっていく必要があると思います。

これまで繰り返しパイロット事業の必要性について言ってきたのは、そういう意味合いもありますが、みんなで「千葉市らしさ」をつくっていく、というニュアンスをもてるとよいです。

椎原委員

さいたま市では文化振興事業団がアーツカウンシルを運営しています。他自治体のアーツカウンシルを見ても、自治体と公益財団法人が協力していないとアーツカウンシルはうまくいかない気がしていますので、まだ議論にはなっていませんが、文化振興財団が運営しないとおそらくうまくいかないと思います。

アーツカウンシルの運営は指定管理者制度ではないという理解でよろしいでしょうか。

吉野文化振興課長

まだ決まってはいないので個人的な見解ですが、指定管理者制度を選択する可能性はかなり低いと思います。

椎原委員

それであれば公益財団法人が運営するのがよいと思いますし、千葉市には文化振興財団と教育振興財団があり、アーツカウンシルの活動は生涯学習などの分野にも関係しますので、両者の協力体制がないと機能しないのではないかと、という懸念があります。

調査・研究機能は、市役所が調査するわけではないと思いますので、誰が調査を行うイメージでしょうか。東京アートポイント計画では、東京藝術大学の熊倉研究室等の学生などが、全国のアートプロジェクトを調査して、今でも無料でダウンロードできる立派な報告書を作成しましたが、それは東京だからできたことだと思いますので、千葉市では何をどのように調査するのか気掛かりです。

教育機関の中で、まさに千葉大学の神野委員長の研究室がそうですが、千葉大学のWiCANは、

例えば栄町のエリアマネジメントなど、そうした活動をずっとやってきています。まずはそのアーカイブなどから始めるとすると、大学の研究者と協力できる体制を作る必要があると思います。

千葉大学に限定せずとも、全国でアートマネジメント教育をしている教育機関を調べてもよいと思いますし、その中でもできれば千葉市内で研究している大学と連携できるとよいと思います。

公益財団法人との関係性が見えない中で、文化芸術振興会議でアーツカウンシルの議論を進めて、公益財団法人は知らないという状況にならないように、どこかのタイミングで公益財団法人も交えて議論するのがよいと思います。文化芸術振興会議だけでアーツカウンシルを審議することに少し限界を感じているという意見です。

神野委員長

アーツカウンシルをどこに設置するかは、これから現実的な問題として考えていくことになると思いますが、椎原委員のご意見はとても重要だと思います。

文化振興課ともこれまで話をしてきましたが、千葉市は教育振興財団と文化振興財団に二分されていて、千葉市美術館は教育振興財団が所管しています。教育振興財団の理事もして感じますが、教育振興財団が千葉市美術館を所管していることで、千葉市美術館はほぼハンドリングされていない感じがしています。理事会において、質問にすぐに答えられないことや準備不足であることは、組織として非常に問題があると思います。それは教育振興財団に位置付けられていることが大きく影響していると思います。教育振興財団の中に、千葉市美術館に対して意見が言える人がいないということです。それゆえに自由度が高くおもしろいこともできたのかもしれませんが、それは一歩間違えればとても危ういことでもあります。

一方で、文化振興財団については、これまで椎原委員からも文化ホール等に関して厳しいご指摘をいただいておりますが、いろいろな課題があります。文化振興課でも活性化を図り、いろいろと骨を折ってきたことは知っていますが、なかなかうまくいっていません。想いはあるけれども実を結んでいない状況です。

市全体のビジョンを共有できる場としてのアーツカウンシルがすごく重要だと思います。とても大きな話ですが、アーツカウンシルを契機として全体的な整理もしていただきたいと思えます。それをしないと、結局、絵に描いた餅で終わりがねない気がしています。

もう1点、千葉大学の話も出していただきましたが、アーツカウンシルだけですべてをやるのは難しいです。連携・協力する外部の機関をどのように開拓するのか、あるいは協力体制をどのように築いて推進していくのか、ということも考える必要があります。

今回は基本構想なので理念ですが、実際にアーツカウンシルが動き出すときには、千葉市内の大学との連携やその連携の内容をイメージしていくことになります。

例えば、パイロット事業に関して、千葉大学には実績がありますので、千葉大学との連携も考えられますし、あるいは調査・研究機能に関して、大学の学生と一緒にできることがあるかもしれません。もちろん千葉大学以外にも文化芸術の領域に関心がある先生や学生がいますので、基本構想を具体化する際には、外部にも協力者をつくって、アーツカウンシル単体で完結するのではなく、面的な拡がりを作っていくことも視野として必要というご指摘かと思いました。

堺生活文化スポーツ部長

現時点では、具体的な組織の設置方法に関しては結論を申し上げられる段階にはありません。

公益財団法人との関係も含めて、これから検討を深めていきますが、いろいろご指摘をいただいている両財団が抱えている現状の課題や千葉市との関係も、事務局では当然認識をしていま

す。アーツカウンシルを稼働して、トータルで改善していくことで、千葉市全体で向上していくことを目指しています。

公益財団法人については中期的な視点で見据えながら、まずはアーツカウンシルをどこに設置し、千葉市や公益財団法人等との体制をどう構築するか、しっかりと検討を深めていきたいと考えています。

パイロット事業や調査・研究機能での外部の方との協力体制については、事務局でもいただいているご意見と同じように考えています。アーツカウンシルで直接雇用できる専門人材は、非常に限られた人数にならざるをえないと思いますので、外部の方の協力・支援は必ず必要になると考えています。ある意味では地域での同志を集めていく機能も併せ持っていると思いますので、そういう視点も持ちながら進めていきたいと考えています。

神野委員長

今後、アーツカウンシルを具体化する中で、すぐに解決に至らない課題もあるかもしれませんが、長期的にはアーツカウンシルが核となって、千葉市全体の文化芸術活動が活性化していく状況を作り出していくということでは、同じ方向を向いているということだと思います。

委員の皆様のご意見を聞いていると、現状の基本構想（素案）は、文章としてはよくまとまっているものの、実際に動かしていく際にはいろいろな懸案事項が想定されるということかと思えます。当然、どんな計画でもそういうことはありますので、計画を具体化していく中で、委員の皆様からご意見を伺いながらサポートしていくことになると思います。

柳澤委員

以前の文化芸術振興会議で、専門人材長に関する参考資料があったと思いますが、専門人材長に関しては、まだ決まっていないでしょうか。

吉野文化振興課長

第4回文化芸術振興会議の後半にアーツカウンシルの組織に関する参考資料を出させていただいたので、そのときの議論についてかと思いますが、組織をどこに設置するかについては次年度の検討として整理していますので、この場では結論がないということでご理解いただければと思います。

神野委員長

スケジュールで示されたとおり、令和7年度にアーツカウンシル基本構想が認められれば、それを基に、稼働に向けた内容の検討をするのと併せてどのような専門人材を選定するか具体的な検討になると思います。

それでは本日ご指摘いただいたことも踏まえて、アーツカウンシル基本構想（案）をまとめていただき、令和7年度から具体的な議論に入っていくということによろしいでしょうか。

椎原委員

事務局は、アーツカウンシルの総予算をどのくらいの金額で考えているのでしょうか。

吉野文化振興課長

具体的な金額は検討している最中ですので申し上げられないのですが、アーツカウンシルは基本構想を作るだけではなく、当然、実効力があるものにしたいと考えています。千葉市全体の千葉市基本計画に基づいた取り組みとして動かすために、第2次実施計画に位置付けることで相応の予算を確保してアーツカウンシルを稼働していきたいと考えているということが、今申し上げ

られる内容ということでご理解いただければと思います。

種谷副委員長

アーツカウンシル基本構想（素案）はよいと思いますが、私の周りには、従来の文化芸術活動を行っているたくさんの既存の団体がいますので、既存の団体が協力できるようなもの、そしてアーツカウンシルができたなら、私たちももっと活動的にいろいろなことができると思えるようなものであってほしいと思います。

アーツカウンシルができたがために、市からの補助がなくなるというようなことにはならないでほしいです。これまで歴史をもってやってきた既存の団体が、アーツカウンシルに協力する気持ちになれるような形を是非とっていただきたいと思います。

そして、今は経済状況が苦しいです。これまで高齢者が多く参加してきた団体は、苦しい経済状況の中で年金を使いながらなんとか活動しているような状況で、辞めていく人がだんだん多くなっていますが、楽しいから続けられています。文化芸術活動は楽しい、仲間もできる、そのように参加することに明るく前向きになれるとよいと思います。

アーツカウンシル基本構想（素案）の文章とは直接結びつかないかもしれませんが、そういうことを感じています。

神野委員長

既存の団体の課題として、高齢化でメンバーが減っていく中で、新しく活動に参加する人が少なく新しいメンバーをどのように集めるか、というときにアーツカウンシルが団体の活動の魅力の発信などについて協力や助言をすることはできると思います。

あるいは創作の場で、例えば三味線の人が必要なので紹介してほしいということがアーツカウンシルを通じて行われていき、ジャンルごとに協力的な人が出てきて活動が広がっていくということが、地域の活動が活発なところでは起きていますので、そういうことを起こしていきたいということでもあると思います。

前回、椎原委員から強調していただいた社会的包摂の視点ですが、これまで子どもの教育や障害者施設でのアートの実践は行われてきましたが、これからは高齢者も含めて、種谷副委員長のご意見にもあったように、楽しい文化芸術活動を一緒にできる場をどのようにつくっていくかがテーマの1つになると思います。

文言としてはそれほど強く出ていないので、社会的包摂の視点の中で、もう少しニュアンスを強めてもよいという気はしました。

吉野文化振興課長

種谷副委員長のご意見につきましては、前回に引き続きご指摘をいただいておりますが、事務局としても真摯に受け止めています。頂きましたご意見について、各機能に文章として落とし込んでいますが、表現を改めた方がよい箇所などがあればもちろん考えさせていただきます。

併せて説明が不足していた箇所について補足します。8ページ、D人材育成機能「D-2多様な主体、地域資源がつながる場の創出」において、文化芸術活動を行う個人・団体がつながる場を企画し、既存の団体や個人の方に参加をいただいて、さきほどご意見をいただいたような「文化芸術活動は楽しい」と感じていただけるような機会を創出するということを考えています。また、団体が活動を続けていく上で、経済状況が苦しいというお話につきましては、7ページ、B相談支援・指導助言機能「B-1文化芸術の担い手（実践する人・鑑賞する人・支える人）への相談支援」での支援を活用しながら、活動を続けていただきたいと考えていますので、ご理解いただければと思います。

表現につきましてはまだまだ修正ができますので、ご意見をいただければ検討していきたいと

考えています。

堺生活文化スポーツ部長

補足をさせていただきます。種谷副委員長から「文化芸術活動は楽しいから続けていける」、柳澤委員から「市民の一人一人が文化芸術活動を実践できるとよい」というお話をいただきました。該当する箇所として、5ページ、3ビジョン（展望）の一段落目に「すべての市民が主体的に文化芸術活動に参加する機会を拡充することで、文化芸術活動が活発に行われる環境を創出します。」と記載していますが、お話を聞いていて、行政の文章としてはこのような表現になるものの、やはり表現がやや硬いのかと思いました。市民が楽しそうに文化芸術活動を行っていることや、個人の関心に応じて文化芸術活動を実践していることなどを、「主体的に」という言葉だけで表すと、そこまでイメージするのは難しいのかと思いますので、そのあたりの表現の補強について検討させていただきます。

神野委員長

柔らかい表現を用いることで、イメージしやすくすることは大事だと思います。

椎原委員

実は高齢者の中にはお金を持っている人も多いです。例えば、昨日、東京文化会館のバルジファルの公演に行きましたが、平日の14時開場ということもあり観客のほとんどが高齢者でした。およそクラシックのコンサートでは観客の高齢者の割合が高いということがあります。坂本龍一の展覧会にも高齢者が多かったです。

もう1点は、フランスの「音楽の日（Fête de la Musique ; フェット・ド・ラ・ミュージック）」についてですが、これはとても素晴らしいです。「音楽の日」では、フランス政府の文化省がコントロールして、パリのいたるところであらゆる音楽を無料で楽しむことができます。毎年、夏至の6月22日頃に開催し、街のいろいろなところで音楽をやっている、辻ごとに音楽家がいるような感じです。パリ管弦楽団もいれば、ギターの弾き語りもいれば、アカペラもいればとジャンルも多様で本当に素晴らしいです。そして街の皆さんはどんな音楽に対しても寛容です。

日本ではフランス教育をしている芸術学科がそのようなことをやっていたり、ストリートピアノが置かれていたりしますが、フランスのようにパリ中で音楽が溢れるのとはやはり違います。

他に例を挙げれば、六本木アートナイトでは、パリで毎年開催されているNuit Blanche（ニュイ・ブランシュ）のように夜通し展覧会をやっています。

市域が広いのでなかなか難しいかもしれませんが、例えば千葉国際芸術祭でフランス政府と共同で「音楽の日」を制定して、最初は一生懸命フランスを真似ることになるかもしれませんが、身の丈でできることはあると思います。最初の内は20人くらいしか集まらないかもしれませんが、例えば千葉市中央公園や中央銀座通りで始めるとか、そういうことはお金がなくてもできると思いますので、是非「音楽の日（Fête de la Musique ; フェット・ド・ラ・ミュージック）」を調べてみてください。

高梨委員

パリの名前を借りるということではないですが、友好都市のようにできたらよいと思うので、私はとても賛成です。千葉市といってもなかなか外には伝わらないですし、「千葉市らしさ」といってもよくわからないくらいです。

若い人たちは、駅の前や人の集まる場所で既に音楽をやっていますし、「音楽の日」のようなことはできると思います。千葉市内にも大学はたくさんありますし、若い人たちもたくさん出

てくると思います。是非それが実現できたらよいので応援したいと思いました。

神野委員長

10ページ、図「各機能の相互関係イメージ」について、上方向に矢印が伸びていくと起きることとして、共有のイメージがあるとよいということかと思います。パリとの協力関係などの具体的なことは、その先の話になるとと思いますがイメージはとても大事だと思います。

東京都現代美術館でも展覧会を開催している、山梨県出身の現代美術家開発好明さんが文化庁芸術選奨を受賞したときには衝撃を受けましたが、僕も山梨で彼の企画をしたことがあります。彼は、3月9日を美術関係者がアートファンに感謝を示す日とする運動として、「サンキューアートの日」というイベントを20年近く続けています。僕が美術館にいたときには、窓口で「サンキューアート」と言ってくれたら割引になるというようなことをしました。

こうしたイベントに乗っかる人たちがいると、アートについて考えるきっかけになりますし、アーツカウンシルが実際に取り組んで、楽しみながらいろいろな人たちを巻き込んでいくことはとても重要です。市民の一人一人が主体という話もありましたが、同時に参加しやすいプラットフォームを考えていくということだと思います。

すごく楽しい、よいイメージが共有されて、そのイメージを実現するための第一歩としてのアーツカウンシル基本構想がまとまり、それを基にして来年度は具体的なことを考えていく流れになるとと思います。本日のいろいろなご意見を踏まえて、この基本構想（素案）を策定に向けて進めていくということでしょうか。

いただいたご意見は事務局で整理していただいて、現状はよくできていると思いますので、さらに精度を上げて基本構想をまとめていただければと思います。

それでは、本日の議題はすべて終了しました。長時間ありがとうございました。

《閉会》

問い合わせ先

千葉市市民局生活文化スポーツ部文化振興課

TEL 043(245)5961

メール bunka.CIL@city.chiba.lg.jp